

陳 情 文 書 表 (2 3 - 4 - その 1)

- 1 受理番号 陳情第4号 令和5年11月16日受理
- 2 件 名 JR久留里線の久留里～上総亀山駅間 (9.6km) の存続について、賛同を求める陳情書
- 3 陳 情 者 住 所 君津市大坂1776-1
氏 名 久留里線と地域を守る会 代表 三浦 久吉

4 趣 旨

JR久留里線の久留里～上総亀山駅間は、上総地域住民にとって大切な公共交通・移動手段であり欠かすことはできません。私たちは、今後も久留里線を存続させていくための方策を、地域住民、事業者、行政が一体となり（協働で）検討し、各々の理解を深めながら進めていくべきと考えるものであり、本趣旨に市議会の賛同を求める旨陳情いたします。

【 経 緯 】

- (1) JR東日本千葉支社長は本年3月9日、利用者減少による不採算路線を理由にJR久留里線の久留里～上総亀山駅間の9.6Kmについて、交通のあり方を地元君津市、千葉県と協議したいと発表しました。このことから一部区間の廃線またはバス転換という方向になるのでは、と心配した沿線住民が中心となり、去る3月26日、上総公民館において団体「久留里線と地域を守る会」を結成・発足しました。その後、廃線反対署名をJR東日本千葉支社に提出、君津市長宛要請、「ローカル線の大切さを知る」講演会を開催しました。
- (2) 去る5月11日、君津市内において「JR久留里線（久留里・上総亀山間）沿線地域交通検討会議」（以下、交通検討会議）が開催されました。この交通検討会議のなかで住民代表の皆さんからの要望で、地域住民説明会が実施されることとなりました。亀山・松丘・久留里地区での説明会においては、多くの参加者から「列車の多くが久留里止まり」「上総亀山までの列車が少なく、昼間は5時間半以上無く、利用したくても列車が来ない」「鉄道が無いとますます過疎化が進む」「上総亀山に観光客を呼び込む努力をして欲しい」「通勤・通学のために久留里線を存続して欲しい」など切実な発言が多数ありました。
- (3) 令和5年3月発行された君津市都市計画マスタープランによれば市民意識調査（アンケート）では、公共交通に関わる要素で「どちらかといえば不満」と「不満である」という回答割合が最も多くなっています。また、JR久留里線・内房線・国道などは、広域交流軸として「拠点」と市街を結び、通勤・通学や買い物、余暇活動などの暮らしに関わる様々な人の移動を支えると共に、各拠点に配置する商業業務機能や産業機能、観光交流機能へのアクセス性を高める軸と位置づけます、とあります。
- (4) 本年6月、三重県志摩市で開催されたG7交通大臣会合において「G7交通大臣宣言」が開催国議長・斉藤鉄夫 国土交通大臣から発表されました。その内容は「過疎地域を含む地方に暮らす人々、高齢者、障害者など最も脆弱な立場にある人々に移動手段の確保、手ごろな価格、可能な限り迅速にアクセス出来るようにすること。また交通分野の脱炭素に取り組む必要がある。さらに我々は鉄道が環境に優しい交通手段であることを認識す

る」とあります。

上記のことから、地域住民の意向、「君津市都市計画マスタープラン」「G7交通大臣宣言」の内容を尊重し、本陳情の趣旨をくみ取って頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

5 付託委員会 総務常任委員会